

これからのまちなかにあったらいいな。をみんなで考えよう！



“いつものまちなか”をつくる

ワクワク シンポジウム

レポート

「ワクワクシンポジウム」を開催しました！

シンポジウムでは、令和6年度からスタートしたまちなかに関する計画の取り組みや市民の皆さんと一緒に取り組んできた、まちなかで出会い、つながりながら「居心地の良さ」や「元気」をつくる「”いつものまちなか”をつくるワクワク会議」の活動を紹介。またゲストの講演を聞き、「これからのまちなかにあったらいいな」を参加者みんなで話し合いました。

開催概要

日時：2025年2月15日(土) 13:30~16:00

会場：ふぁみりこらぼ 304会議室

参加者：63名

当日のプログラム

1. はじめのあいさつ
2. 中心市街地まちづくり計画策定について
3. 中心市街地まちづくりの方向性について
4. ゲスト 山崎亮さん講演
5. まちなかの取り組み発表
6. 参加者同士で気づきの共有
7. おわりのあいさつ

1. あいさつ

企画調整課大谷課長よりはじめのあいさつがありました。

中心市街地のまちづくり計画を令和6年度から2年間かけて策定しています。この計画策定は、ハード整備を前提とせず、地域に暮らす市民の意見を聞き、共に考えて仲間をつくり、人とつながりながら課題を乗り越えていくまちづくり「コミュニティデザイン」の手法を用いています。シンポジウムの最後には、参加した皆さん自身が、「次は何しようかな」、「自分たちもこんなことで協力できるかな」など、ワクワクした気持ちになってほしいと思っています。



企画調整課 大谷課長

2. 中心市街地まちづくり計画策定について

計画策定の経緯や今年度の取り組み「ワクワク会議」について、企画調整課の岡部さんから説明がありました。

① 計画策定の経緯

令和8年度からスタートするまちなかに関する計画策定は、新中央図書館の整備と合わせて、駅前をはじめとするまちなかの居心地の良さや元気なまちなかをつくるため、市役所だけでなく地域で暮らす人、活動する人、活動をしてみたい人たちが一緒になってまちなかエリアについて考え、エリア全体を盛り上げていく計画をつくりたいと思っています。



② 今年度の取り組み

令和6年度は「1. 意識調査」、「2. ワークショップ」、「3. 分析」、「4. 方向性の検討」の4つの取り組みを進めてきました。

1. 意識調査

60組の思いを聞く

まちなかを中心とした自治会長、子育て中のパパママ、団体、商業関係者、福祉関係者や高校生など、およそ60組の皆さんから「まちなかにあったらいいこと」、「まちなかでやってみたいこと」などを伺いました。意識調査を通して「いろんな世代の人がいて本当のにぎわい」などまちなかの皆さんの意識や希望が見えてきました。

2. ワークショップ「いつものまちなかをつくるワクワク会議」

第1弾(全2回)は「いつものまちなかを知る」ことを目的に、様々な思いや人と出会ったり、まち歩きをしたりすることで、まちなかへの関心が高まりました。第2弾(全4回)は市民みなさんがやってみたいことを妄想しながら「まちなかで小さくお試しする」ワークショップ。同じ思いを持つ参加者が仲間になり何度も話し合いを重ね、7つの企画を小さく実践。「ワクワク会議」を通してみんなでまちなかを考えるきっかけが生まれました。

第一弾の様子



第二弾の様子



3. 分析

あったらいいな

60組の声を92の言葉に

「意識調査」で話を聞いた60組の声を「あったらいい」ことなどに分類し92の言葉にまとめました。92の言葉の中から「ワクワク会議」に参加した市民みなさんが共感する言葉を選び、また、参加者自身の「あったらいいな」も話し合いました。これらの声を聞いた市職員の声の多くも、市民みなさんの声に共感するものばかりでした。

4. 方向性の検討

まちなかの方向性は、13課31人の市の職員からなる「つながるまちなかプロジェクトチーム」で検討を進めています。参加している市職員は、意識調査などの市民みなさんの声を聞き、まちなかに「あったらいい」ことや事業について話し合いを重ねています。計画策定に向けて、今後もシンポジウムやワークショップ、新たに市民アンケートや有識者審議会などを予定しています。

デイキャンプができる公園
(あったらいい活動・場所)

本を読まなくても
居たくなるような図書館
(あったらいい新図書館)

挑戦を応援してくれる
(あったらいい気持ち)

友人に渡して
喜ばれるお土産
(あったらいいお店)

自習ができる
休憩スペースやカフェ
(あったらいいお店)

目的がなくても
来られる場所、
おしゃべりできる場所
(あったらいい息つくもの)

学校以外で、
地域の人に会える機会や
地域から学べる場所
(あったらいい活動・場所)

3. 中心市街地まちづくりの方向性について

まちづくりの方向性や計画のポイントについて企画調整課の齊藤さんより共有がありました。

計画をつくるポイント

計画をつくる3つのポイントを説明します。

① しっかりと 声を聞く

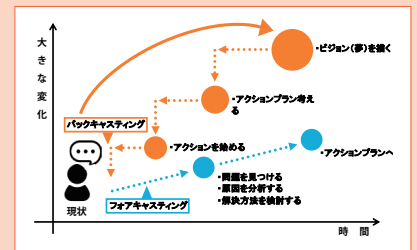
まちなかに暮らす人、活動する人、さらに幅広い市民の声をしっかりと聞くことからスタートしたいと思っています。みなさんの声に加え、市としての費用面や社会情勢、中心市街地の歴史や強みなど全体のバランスを考慮しながら計画を策定していきます。経過は都度シンポジウムなどの機会でも共有し、一緒にまちなかについて考え活動する市民や民間の事業者みなさんとの協働や連携にもつながっていきたいと思います。

② 「誰」を 明確にする

誰に使ってもらうのか、誰が今使っているのか、その人たちがいつ使うのかなど、多様な属性の市民のみなさんを描きながらマーケティングの視点で「誰」をしっかりと考えていく必要があると考えています。

③ バックカスティング で考える

まちなかにある目の前の課題を解決しようとする方法よりも、理想の目指すべきところを最初に定め、そのために何をしていくか考える「バックカスティング」の方が大きな変化が起こりやすいと言われています。今回の計画策定も「バックカスティング」で進めていきます。



声

から見るまちづくりの方向性

現時点で考える方向性を説明します。みなさんはどう思いますか？

あったらいい(理想の)まちなかのイメージ

よそ者を受け入れる寛容性／チャレンジを応援する／人とのつながりによって愛着・協働・共生が生まれる

あったらいいこと・もの

入ってみたいなお店／安全性を高めるハード整備／人と出会う場所／目的がなくてもいられる場所／まちに関わっていくしくみ

誰

- ・まちなか在住者
- ・まちなかで活動している人／活動しようとしている人

強み

- ・差別化ポイントが多い
- ・既存のストックが数多くある

エリアのビジョン (イメージ)

ほっとする

愛着が生まれる

いてもいいと思える

長くいたくなる

● 計画の視点

- | | |
|--------------|-----------------------------------|
| いつものまちなかをつくる | 行きたくなる・いてもいいと思える・ほっとするなどの感情を抱く場所 |
| まちなかを活かすソフト系 | ハード整備だけでなく今あるまちなかの資源を活かすソフトの視点 |
| まちなかへの見方を変える | こんな使い方ができそう、もっと居心地がよくなりそうなど見方を変える |

4. ゲスト 山崎亮さん講演

コミュニティデザイナーの studio-L 代表 山崎亮さんをゲストに招き、コミュニティデザインや新しい時代のまちづくりについて講演していただきました。

ひたちなか市はあったかいまち

ひたちなか市って、あったかいですね。午前中に「ワクワク会議」に参加した市民みなさんがまちなかで実施した活動を見させてもらって感じました。「オールディスコ」という企画では、会場の中に手作りのミラーボールが回りおばあちゃんがノリノリで踊っている。その後ろにちょうどよい距離感で転ばないように見守っている人がいる。その手前の入口付近にはこたつが2台置かれていて視覚的にもあたたかいし、会場に入りにくい人への配慮も感じました。その他の企画どれからもあたたかさを感じたので、**こういう市民のみなさんがいるまちは面白くなる**だろうなと思いました。

コミュニティデザインを始めたきっかけ

僕はstudio-Lというコミュニティデザインの事務所を運営しています。元々は建築やランドスケープ、公園の設計など、建物を設計する仕事をしていました。建物を設計しながら、役所や建築家が勝手に設計したものは地域に愛されないなと思いました。そこで、**地域の方々と一緒に話し合って、そこで「何をしたいか」という話し合いの場を設計する仕事**をするようになりました。

複合施設「おにクル」の取り組み

2020年から関わっている「おにクル」（大阪府茨木市）は2023年にオープンした大きな複合施設です。最近では、人口が減ることをみんな分かっているので、新しい施設を建てることは全国的にほとんどなくなってきました。そこでハード整備ではない形でまちを魅力的にしていこうという自治体が増えていきます。

一方「おにクル」は大きな施設を建てることは決まっていたので、どうせ建てるなら市民の方々に関わって意見を出しながらみんなで話し合って、**ここで何がやりたいのか、何をやってる時に自分たちは幸せになるのか。誰と一緒にそれをやりたいのか。**といった話を続けてきました。建物ができる前からそんな対話を重ね、施設が完成する頃には市民みなさんが活動するチームがたくさん生まれていました。実際に施設オープン後も市民みなさんにめちゃくちゃ使

われています。それはなぜかと言うと、施設のデザインが良かったからだけではなくて、**コーディネーター5人が市民の活動をサポートしているから**です。もちろん施設ができる前から何度も社会実験を繰り返し、仕組みやルールをつくりながら組織もつくっていった背景があります。

市役所の職員もまた勉強会を繰り返しながら多くを学んだ結果、市民と役所とで一緒に対話をしながらつくりあげていく関係性ができました。結果的には大きな施設ができましたが、7層ある各階で市民がほぼ毎日何かしらの活動をしているという状態になっています。こんなことになっていくのがいいなと思ったので、僕は20年前にこのコミュニティデザインという仕事を始めました。



おにクルでの市民活動

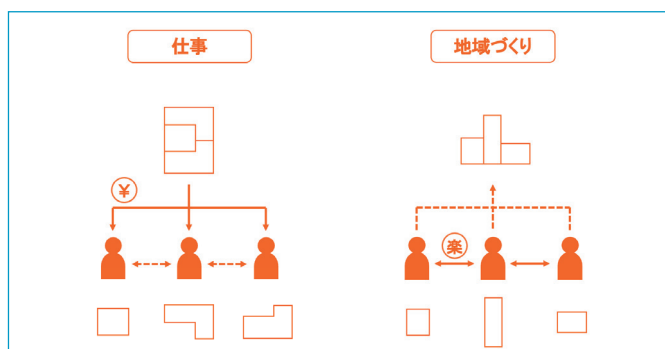
日常的に愉しめるプログラムを繰り返す

ひたちなか市のみなさんがまちなかを考える時には、まず市民の方々が**「あったらいいな」と思うもの**をやってみる。しつこく繰り返しやってみる。やる中で新しい友達を見つけたり、みんなが楽しんでくれるかなと思うようなプログラムを思いついたりします。年に1回ぐらいしかできないような力を込めた「イベント」ではなくて、すぐにお試しできる「プログラム」が良いと思います。日常的に皆さんが愉しめるプログラム、**仲間とあまり力かけなくてもできることを繰り返し続けられるまちなか**があっている。その時に、道路や歩道を使うときは誰に許可を得たらいいのか、親水性中央公園で普段はできないことをどうやったらできるようになるのかなど、**市民が学んでいくプロセスにもなる**わけです。だから、結構時間をかけた方がいいことだと思います。これを時間をかけずに行政が仕組みを作って、業者に発注して誰かがやってくれるってことだったら、今までと同じですね。これからの新しい形として、まちなかでどんなことをやっていくのかをみんなで考え、アイデアを出すだけじゃなく、みんなが実際にやって

みる、仲間を増やしていく。そこから計画を作っていくのいいのではないかと考えています。

新しい時代の計画づくり

下の図は、「仕事」と「地域づくり」の違いを示したものです。こういうことをしてほしいと依頼される時あるいは、皆さんがふだんお金をもらって働く仕事もそれぞれが依頼主に求められるものをつくります。僕らがこれまでやってきたような昔の都市計画や建築設計の方法です。でも、地域やまちなかで何か活動をやろうというのは、市民が「やりたいこと」をやるのでどんな形になるかわかりません。右側は、地域づくりを表しています。新しい時代の計画づくりに近いかもしれません。左側の図は、仕事でこういう形をつくってほしいと思う時のものです。左側は完成図面とか、僕らで言うところの平面図とか呼ばれたりするものですが、完成品を作ってほしい場合はお金を払ってそれぞれの形を完璧に作ってくれる人たちに発注します。多くの仕事はこうしています。今までの都市計画もそうでした。都市計画も、専門家、建築家や行政の方々が、駅前はどうなったらいい、まちはこうなったらいいとつくっていました。時代が変わり、潤沢な予算がなくなったり、地域住民の意見を聞かずに計画をつくったりすることが難しくなってきました。



「『仕事』と『地域づくり』の違い」イメージ

どうなってきたかと言うと、地域の方々に来ていただき、その人たちができることや楽しいと思う得意技を持ち寄ります。持ち寄りながらそれを楽しいと思う人同士でつながることもあります。お金ではない楽しさでつながっている

いことがある人たち、気が合う人たちが徐々に生まれてきて、その人たちが活動している間に形も変形していくと思います。どんどん活動の内容が膨らんでいったり、新しい仲間が1人増えたら、その人ができる形が加わったりするので、上の形がまた変わることがあります。活動内容がどんどん変わりがちながら、まちなかにずっと誰かが関わり続けてるっていう場所になるのがこれからの計画づくりなんだろうと思います。

今回、この地域づくりを何度も何度も繰り返していると、この図の中にうまく表せないんですが、独自のルールが生まれてきます。地域には迷惑をかけないように静かにしてほしいという人、若い子どもたちと一緒にやりたいという人、高齢の人など、いろんな人がいるので、地域の自治体の方々と一緒に、それぞれが楽しくなるにはどうしたらいいのかを考え、話し合うことでこの地域独特のルールや雰囲気



山崎亮さん講演

顔の見える丁寧な進め方

市民のみなさんはたくさんの得意分野を持っていて、いろんなグッズを家に持っています。愛着を持っているキャンプの椅子を持ち寄って何か始めることが、役所がベンチを設置してくれること以上に大事かもしれません。あの人のベンチだって言われた途端に丁寧に座るかもしれない。そんな関係性の部分を切らないで、まちを元気にさせたり、楽しい場所にさせたりしていくのが丁寧な進め方だ

5. まちなかの取り組み発表

「ワクワク会議」から生まれた市民みなさんの取り組みと茨城工業高等専門学校の学生のまちなかでの活動について紹介しました。

ワクワク会議（第2弾小さくお試し編）とは？

まちなかで何かやってみたい市民のみなさんと12月から話し合い、2月15日にまちなか（勝田駅東口周辺と親水性中央公園）で小さくアイデアを試しました。

● ワクワク会議のプロセス

12/1(日)

第1回アイデア発想



12/22(日)

第2回チーム結成



12月~2月

第3回個別相談



2/15(土)

小さくお試し！



● メンバーの感想

小さくお試しプロジェクトの感想を発表しました

竹パフォーマンス (ひとみさん)

大好きな竹といつもの親水性中央公園で竹パフォーマンスができたことにワクワクが止まりませんでした！

流しラーメン (つばさくん)

まちなかでやってみたかった流しラーメンが実現できて楽しかったです！！



おしゃべり書道 (みおちゃん)

子どもから大人までたくさんの方が書道を楽しんでくれました。そんな来場者の姿を見て私も嬉しかったです！

CHOCO CAFE (ゆりこさん)

みんなで夢を語りながら、小さくお試しの場が実現できて最高に楽しかったです。次につながりますように！



茨城高専の学生の発表

茨城高専とひたちなか市のプロジェクト「TECH-MECH ひたちなか」について発表しました。デジタルアートの創作活動をする「デジタルアーツ同好会」メンバーが、市職員や地域の方々と協力しながら、中心市街地活性化を図るプロジェクトとしてインターンとプロジェクションマッピングを実施しました。



6. 参加者同士で気づきの共有

取り組みや講演を聞いて「まちなかのイメージ」について、また「あったらいいまちなかにするためにどうするか」について意見交換をしました。

※参加者の声を一部抜粋して掲載しています

1. まちなかのイメージ

そのために

- ・ イベントがなくても日常的に行けるといい
- ・ 1人1人のやりたいことが掛け合わさるともっと楽しく笑顔が増えそう
- ・ そこに行けば「なんか楽しい」があるまちなか

2. あなたならどうする？

- ・ やりたい人のやりたいことを応援する
- ・ 古いものを残しながら新しいことをやっていく
- ・ 仲間を増やす
- ・ 自分ができることを小さくやる！まずはまちに出る